

「川をきれいにする児童図画」審査会

講評：審査委員長 山形県教育センター指導主事 丸山 あき子

〔はじめに〕

今年度の「川をきれいにする児童図画コンクール」には、県内30市町村の117の小学校から、ポスターの部に1,463点、川景の部に761点、合計2,224点の応募がありました。平成4年度から始まりましたこのコンクールは、県内で開催されている小学生対象の絵画やポスター募集の中でも大規模なコンクールとなっています。これは、山形県の小学生の皆さんが真剣に川を大切に考えている表れだと思います。このようにたくさんの絵やポスターを一生懸命に描いてくれたことは大変うれしく、川に対する思いが広がり、定着していることは、本当に素晴らしいことだと思っています。



〔川への思いを大切に〕

元気よくいきいきと感動や思いが描かれた作品、時間をかけて丁寧に表現された作品など、山形県の川を大切に思う気持ちが伝わる作品と数多く出会えて、うれしく感じました。

ポスターの部では、「ふるさとのきれいな川を残したい」というメッセージが強く感じられ、川景の部では、実際に川に行き受けた印象や思い出などから、自分で見つけ出した川への愛着が伝わりました。どちらの部門も、きれいな川を大切に思う皆さんだからこそ生み出された作品ばかりでした。

〔出品者の皆さんへ〕


皆さんがこのポスターや絵を描こうとしたとき、作品のヒントやアイデアがすぐに浮かんできただけでしょうか。じっくり考える時間をとらなかつたり面倒になったりして、つい誰かと同じような作品になってしまった、という経験もあるでしょう。一人一人違う、川への思いがあるはずで、川の色や感じ方や筆の使い方もそれぞれ違っているはずで、勇気を持って色や形に表すということは、線が曲がっても、色がにじんでも、あなただけのかけがえのない足跡になります。自分らしさを大切に、何を描こうか、何を伝えようか、楽しく迷いながら元気いっぱい描いてください。

作品を完成させるまでには、悩みや苦労が連続します。しかし、自分を信じ自分の力だけで乗り越えていくことが、ポスターや絵を描く面白さでもあります。チャレンジしながら素敵な作品をどんどん描いてみてください。

〔指導される方へのお願い〕

以下に指導される方（学校の先生や保護者の皆さん）へのお願いをいくつか記します。

- ① 子どもさんの作品は本人自身のものですので、人の心に他の人が手を加えることはできません。活動の際、テーマや制作に関わる支援は必要ですが、「これはこう描くんだよ」「こうしないとだめだよ」といった子どもさんの創作意欲を削ぐような指示や手直しは避けてください。また、それぞれの個性や発達段階に応じて、他の子どもさんと比べたり一様な技能を求めたりせず、その子どもさんらしさを大切に「得意技」で取り組ませてください。造形教育の出発点は個々の違いを理解し、認めていくことが大切です。

- 
- ② 描き始める前に川に対する思いをふくらませるための時間をじっくり取り、描きながら自分の思いや表し方を探究していくプロセスを大切にしてください。安易に出来合いのアイデアの模倣はさせず、自分で工夫したオリジナルの作品になるようご指導ください。感じることは絵が描けることより大切なことです。日々の生活の中で自ら感じ、考えるための様々な体験をさせてくださるようお願いいたします。
- ③ 子どもさんにとって、表したものを受け止めてくれる人がそばにいることは一番の応援になります。また、自分の思いを安心して外に表現できることが自信と自己肯定感につながります。子どもさんの考えや感じたことをそのまま受け止め、表現に共感する心と愛情をもって、楽しく対話を重ねて頂ければと思います。

〔今年度の受賞作品について〕

見ごたえのある作品ばかりで、審査するのにも大変苦勞をし、時間もかかりました。これは、とてもうれしい悲鳴です。審査は技術面での順位を決めることではありません。誰かに今回の代表になってもらう、ということであり、皆さん一人一人が特別で、特別賞なのです。その作品を大切に飾り、そして次の作品に向かってください。

それでは今年度の受賞作品を改めて見てみましょう。

ポスターの部で特選を受賞した八木橋花映さんの作品は、川を中心に、人や魚や鳥や昆虫、植物など、生き物たちが画面いっぱい埋め尽くされ、立ち止まってじっくり鑑賞したくなる作品です。色使いや筆の使い方を工夫し、モチーフ一つ一つを丁寧に愛情を込めて表現した様子が伺えます。みんなニコニコで幸せそうな様子から、みている私たちも思わず笑顔になりますね。また、この幸せな環境が永遠に続くために、川の命を守ることにについて見る側に訴えかける強いメッセージも感じ、ポスターとしての役割を十分に果たしています。

川景の部で特選を受賞した瀬川芽愛さんの作品は、春にお出かけした時にみた光景でしょうか。清々しい川の流れと、色鮮やかなこいのぼりの一瞬をとらえた安定感のある構図や丁寧な色使いから、見る人を絵の中に引き込んでしまう魅力を感じます。川の音が聞こえ、今にも心地よい風が吹いてきそうですね。今年の5月から、だいぶ通常の生活が戻ってきて、お出かけをする機会も増えてきているのではないのでしょうか。ぜひ、近くの川に足を運んで、山形の川と触れ合った時の感動を、瀬川さんのように絵に表してみませんか。

どちらの作品も作者の独自の視点が生かされ、見ている私たちも気持ちよく、楽しい気分になりました。皆さんも、その時に考えたことや感動を大事にし、楽しくのびのびと試行錯誤しながら自分の思いを表してみてください。

〔結びに〕

「川をきれいにする児童図画コンクール」は、今年度も応募された皆さんの川への思いがたくさん詰まったものになりました。ぜひ皆さんの心の中の「山形県の川をもっときれいにしたい」という思いをさらに大きく育て、次の世代までつなげていってほしいと願っています。